

ヘイト&ホープ：演劇の可能性を開く 異なる背景を持つ他者とのコミュニケーションへ

果てとチークは、約10年にわたって、演劇という方法で、社会にまん延するアンフェアな構造やそれにより生まれる大きな歪みを、人と人との対話を軸に、どう考え解決することができるかを実践してきました。

演劇は、映画や書籍、またはテレビや新聞などのマスメディアに比べ、限りなく小さな集団に向けて行われる、最早祈りのように微かなツールですが、私たちの隣人として生活しているマイノリティ・マジョリティの人々が生身の人間として可視化され、確かに舞台上に息づき、同じ時間を共有することで、観客は作中の営みに時に没入し、時にそれを客観視しながら、連帯と断絶について思考する場に参加することができます。

たとえ直接的に会場での対話生まれずとも、劇場の外に出た時、観客の胸に疑問の種や今まで知ることの無かった誰かの困難についてより深く調べてみたい、という気持ちを残し、それが社会正義への変革の小さな一歩になることを目指して活動しています。演劇とそこに付随する対話の場づくり、さらには社会構造自体の変革を目指すコミュニケーションには何が必要かについて、ぜひ多くの方とお話してみたいと思っています。

■出演： 中島梓織さん



劇作家・演出家・俳優・ワークショップファシリテーター。いへんじ主宰。セゾン文化財団2026-2027年度セゾン・フェローI。個人的な感覚や感情を問いの出発点とし言語化にこだわり続ける劇作と、くよくよ考えすぎてしまう人々の可笑しさと愛らしさを引き出す演出が特徴。創作過程における対話に重きを置いて活動している。

■出演： 松岡宗嗣さん



愛知県名古屋生まれ。政策や法制度を中心とした性的マイノリティに関する情報を発信する一般社団法人fair代表理事。ゲイであることをオープンにしながら、Yahoo!ニュースやGQ、HuffPost等で多様なジェンダー・セクシュアリティに関する記事を執筆。教育機関や企業、自治体等での研修・講演実績多数。

果てとチーク



升味勲隆(写真左)と川村瑞樹(写真右)が主宰する演劇ユニット。フェミニズムを作品の“テーマ”ではなく“ベース”として捉え、日常に遍在する社会的マイノリティへの偏見や意識的・無意識的な排斥、無知や無関心のグロテスクさを、ポップかつドライに描く。上演を通じ、生身の人間が“今ここで起きた本当”として、私たちの社会と地続きの問題提起を行うことで、観客が断絶や連帯を思考する“場”を生み出す。



■日時：2026年9月5日(土) 13:30~16:00 ※受付時間13:15~

■会場：オンライン開催

※Zoomを使用します。参加方法の詳細は、お申込みくださった方に開催前日までにメールいたします。聞くだけの参加も可能ですが、この対話の場を一緒につくれるよう、お声を出していただけたら幸いです。参加者さまのお顔は写らないよう初めはこちらで設定しますが、ご発言の際は自主的にお顔を写していただけます。

■参加費：無料 ※先着50名様。申込の締め切りは26年9月3日または定員に達した時点の早い方。

■主催：NPO法人まちぽっと ソーシャル・ジャスティス基金 <https://socialjustice.jp/> メール info@socialjustice.jp

■お申込みページ：<https://socialjustice.jp/20260905.html> ※事前のお申し込みが必要です。